

委員からの意見(一部抜粋)

委員:3年間の中止になると、受け入れ事業所も中学校や育友会側も、以前にどのように行っていたかが分からなくなっていき、これまで続けてきたことが、衰退していくので、日数を減らすことはやむを得ない。

委員:昨年度に事業所側に行ったアンケート結果を見ると、生徒の食事を心配する声や時短をならば受け入れ可能という事業所もあるので、2日という日数は妥当である。

委員:10歳未満の感染者が多いという傾向から、市内公立の保育園は、受け入れしない方針であると聞いている。

委員:この事業は、全国的に重大な事件に14歳の少年が関わる人が多いことから、本県の中学2年生全員を対象に、単なる仕事体験ではなく、受け入れ事業所は、一日中草むしりでもいいので、その中で社会性等を育てる活動である。

委員:事業所内で陽性者が発生した場合などについては、福野中だけで決めることではないので、市教育委員会と学校でしっかり決めてほしい。

委員

- 1 南砺市商工会福野支部長
- 2 青少年育成南砺市民会議福野支部長
- 3 学識経験者(元西部教育事務所長)
- 4 南砺市教育総務課係長
- 5 南砺市教育総務課14歳の挑戦担当
- 6 福野中学校長
- 7 福野中学校育友会長(本委員会委員長)
- 8 福野中学校育友会担当副会長(14歳の挑戦実行委員長)

